



2010年10月

大阪大学

バリアフリーとサインのフレームワークプラン

Framework Plan for Barrier-free Design and Sign System
OSAKA UNIVERSITY

□ はじめに ～「バリアフリーとサインのフレームワークプラン」とは何か	02.
-------------------------------------	-----

□ 第Ⅰ部 バリアフリーのフレームワークプラン

I-1. バリアフリーのフレームワークプランにおける理念	02.
I-2. バリアフリーのデザインガイドライン	03.
I-3. バリアフリーのアクションプラン	
I-3-1. 豊中キャンパス／外部空間バリアフリー調査結果・改善計画	05.
I-3-2. 吹田キャンパス／外部空間バリアフリー調査結果・改善計画	06.
I-3-3. 箕面キャンパス／外部空間バリアフリー調査結果・改善計画	07.
I-3-4. 豊中キャンパス各部改善提案	
B-T-1. 正門前～基礎工学部前付近	08.
B-T-2. 生協前・附属図書館本館前	08.
B-T-3. サイバーメディアセンター前	09.
B-T-4. グラウンド付近	09.
I-3-5. 吹田キャンパス各部改善提案	
B-S-1. 千里門付近	10.
B-S-2. 工学部・生協エリア～中庭	10.
B-S-3. 大阪モノレール阪大病院前駅出入口	11.
B-S-4. パスターミナル	11.
B-S-5. 本部共通棟 B 1 階	12.
B-S-6. 本部共通棟 西側スロープ	12.
I-3-6. 箕面キャンパス各部改善提案	
B-M-1. 福利会館～中庭	13.
B-M-2. 研究講義棟 B 棟～E 棟	13.
B-M-3. 体育館周辺	14.
B-M-4. 東門新設	14.

□ 第Ⅱ部 サインのフレームワークプラン

II-1. サインのフレームワークプランにおける理念	15.
II-2. サインのデザインガイドライン	15.
II-2-1. サインのヒエラルキーと配置の考え方	15.
II-2-2. 個別サインのデザインガイドライン	16.
II-2-3. インフォメーションセンター	18.
II-2-4. メンテナンスと情報更新への配慮・対応	18.
II-2-5. デザインガイドラインの運用について	18.

II-3. サインのアクションプラン

II-3-1. 豊中キャンパス／サインの改善計画	19.
II-3-2. 吹田キャンパス／サインの改善計画	20.
II-3-3. 箕面キャンパス／サインの改善計画	21.
II-3-4. 豊中キャンパス各部改善提案	
S-T-1. 阪大坂下交差点	22.
S-T-2. インフォメーションマークの設置	22.
S-T-3. グラウンド入口付近	23.
S-T-4. 基礎工学部 I 棟南側	23.
S-T-5. 豊中キャンパスでの自動車用誘導表示設置箇所	24.
II-3-5. 吹田キャンパス各部改善提案	
S-S-1. インフォメーションマークの設置	25.
S-S-2. パスロータリー北側 ポンプフェンス付近	25.
S-S-3. サイバーメディアセンター本館前	26.
S-S-4. 大阪モノレール阪大病院前駅～東口交差点	26.
S-S-5. 生命機能研究科 ナノバイオロジー棟前	27.
S-S-6. 東西通り	27.
S-S-7. 福利会館付近	28.
S-S-8. 本部共通棟 西側スロープ付近	28.
S-S-9. 吹田キャンパスでの自動車用誘導表示設置箇所	29.
II-3-6. 箕面キャンパス各部改善提案	
S-M-1. 坂下交差点における学外案内板	30.
S-M-2. インフォメーションマークの設置	30.
S-M-3. 箕面キャンパスでの自動車用誘導表示設置箇所	31.

□ 第Ⅲ部 建物の名称表示のガイドラインと主要街路の名称

III-1. 建物の名称表示のガイドライン	32.
III-1-1. 本ガイドライン策定目的	32.
III-1-2. ガイドラインの対象建物	32.
III-1-3. 命名方法（建物名称）	32.
III-1-4. 建物名称の再編	33.
III-2. 主要な街路の名称	35.

□ はじめに

～ 「バリアフリーとサインのフレームワークプラン」とは何か

大阪大学では、高齢者や子ども、肢体・視覚・聴覚などの不自由な方々、外国人等言語的バリアーをかかえる人々まで含めた多様な人々にとって、そして、徒歩・自転車・車椅子・自動車など多様な移動手段の人々にとって、安心して移動や利用のできる、わかりやすく、真に開かれたキャンパスの整備をめざしている。

本指針は、これを達成するための指針であり、以下の3部によって構成されている。

第Ⅰ部はバリアフリーについての指針である。ここでは、障害を持った人に限らず、あらゆる人々がより使いやすいキャンパスを実現するために、建物入口のあり方などの直感的にわかりやすい空間構成、スロープの設置による段差解消、十分な歩道幅の確保、その他、空間のユニバーサルデザインに関するガイドラインを述べ、さらに外部の共用空間の調査結果と具体的な改善計画をまとめている。

第Ⅱ部はサイン計画の指針である。ここでいうサインとは、来訪者に対する、キャンパス内における位置表示、建物等への誘導、および、建物等の名称表示の役割を持った案内標識類のことである。ここでは、広域かつ多部署が共存するキャンパス内にあって、わかりやすく、考え方が整理された、かつ、美しい表示体系を実現するためのガイドラインと、具体的な配置計画やデザインの改善計画について述べる。

第Ⅲ部は建物等の名称表示のガイドラインである。これは、キャンパス内の建物名称について、利用者にわかりやすく、愛着を持たれるものにするために、その命名表示方法について定めるものである。なお、既存の建物については、一部の類似する名称による混乱のあるものを除き、当面は現行の名称を継承するが、キャンパス内の案内標識（サイン）やパンフレット、ホームページ内のキャンパスマップにおける表記については、このガイドラインにしたがった建物名称を用いることとする。

本フレームワークプランは、これら「キャンパス内におけるアクセスのしやすさ」の主要な要素を、指針としてまとめたものである*。

今回改訂にあたっての経緯

本指針は、平成20（2008）年3月策定の「バリアフリー・サインのフレームワークプラン」の増補改訂版である。大阪大学は、平成17年（2005年）にキャンパスマスタープランを策定した。このマスタープランの下位にあたる指針として、平成20（2008）年3月には「バリアフリー・サインのフレームワークプラン」が策定された。このときには豊中、吹田、両キャンパスが主な対象であったが、平成19年10月に、大阪外国語大学と大阪大学は統合し、旧大阪外国語大学の校地は大阪大学箕面キャンパスと位置づけられたことにより、箕面キャンパスに関する調査と計画策定が必要となった。

また別の問題として、大阪大学では、数多くの学部、研究科等部署が存在するため、建物等の名称がわかりにくい、という問題があった。建物名称がわかりにくければ、サイン等の案内・誘導効果は半減する。そこで改訂作業において、これら建物等の名称表示のしかたについても、言及することとなった。

なお、「フレームワークプラン」とは、キャンパス全体の骨格や、オープンスペースなど全学共用空間のあり方、建物等との関係性などを定義・再定義してゆくことによって、キャンパスの豊かさを維持・向上しようとする指針であり、年月が経って個別の開発計画が大幅に変わっても、陳腐化することのない表現を目指している。なお大阪大学キャンパスマスタープランも、このフレームワークプランとしての性格を強くもっている。

※ 本指針では、キャンパスの屋外共用空間についてまとめている。建物内部や、屋外であっても共用性の低い空間は、基本方針は準用されるべきであるが、各部署の個性が高いため、詳細には言及していない。

□ 第Ⅰ部 バリアフリーのフレームワークプラン

I-1. バリアフリーのフレームワークプランにおける理念

1. 多様な人々への配慮

高齢者や子ども、肢体・視覚・聴覚などの不自由な方々、外国人等言語的バリアーをかかえる人々まで含めた多様な人々にとって、そして、徒歩・自転車・車椅子・自動車など多様な移動手段の人々にとって、**安心して移動や利用のできる、わかりやすいキャンパス**の整備をめざす。

2. 空間的・社会的な配慮

移動や利用のしやすさについては、エレベーター整備・段差解消・ユニバーサルトイレの整備などバリアフリー化のみならず、人による支援・介助なども考慮する。また、わかりやすさについても、**サイン・情報機器などによる案内・誘導のみならず、建物やストリートファニチャーによる誘導、人による案内、さらには風・香り・音などの人の五感をも生かした、総合的な配慮**を目指していく。

しかし一方で、せっかく整備したスロープに自転車などが放置されるなど、心ない行為によって整備の意味が無くなるようなこともありうる。つまり、ハードウェアの整備とともに、人々の心の姿勢に対し**継続的に啓発活動を行うことで、心のバリアを取り除いてゆく**ことも必要である。

3. 印象に残る環境

個性的な街路や広場は、人々の心に描かれるキャンパスの空間像を確かなものにしていくより所となるため、樹木や舗装などで個性化し、**心に残る印象的なキャンパス**をつくっていく。また、地形の起伏や坂道、そして景観の背景やアイストップとなる自然は、**キャンパス景観の個性**そのものであり、これらを大切にしたい上での最善の整備や対応を目指していく。

4. 最善の配慮の追求

キャンパスマスタープランならびに当フレームワークプランの理念とデザインガイドラインを尊重し、整備規模の大小や本部・部局の主体にかかわらず、その都度、関係者には**最善のデザインを追及していく責任**がある。常に、**関連分野の専門家**に意見を求める必要がある。

5. 計画的整備と柔軟性のバランス

数年おきに**アクションプラン**を作成し、緊急度に対応した整備を進めていくことが必要である。一方で、身体不自由者がかかえる問題は一律でなく、**常に一人の方への個別な整備・対応**ができるよう、柔軟な予算措置のしくみと体制を確保しておかなければならない。予算の多少にかかわらず、**できるところから着手するという姿勢**も必要である。また、その時代の最高の知見に応じて、**ガイドラインやアクションプランの加筆**、場合により修正も可能とする。

6. 参加型のデザイン

身体の不自由さと環境との関係から、**予期できない様々な問題**が生じる。学生・教職員・市民の立場、身体的不自由の有無にかかわらず、様々な方からの意見や指摘を受け止め分析する。また、身体不自由者によるキャンパスの点検と環境改善の提案は不可欠であり、これに関わる学生・教員グループ、授業等による**自主的な活動も支援**していく。

7. 周辺環境との連続性

キャンパスのみならず、駅など交通施設からのアプローチ、周辺市街地や主要施設との連続性に対しても配慮していく。建物内、部局などエリア内、キャンパス空間、周辺市街地へと広がる**連続的なネットワークの形成**を意識した取組みを行っていく（図1参照）。

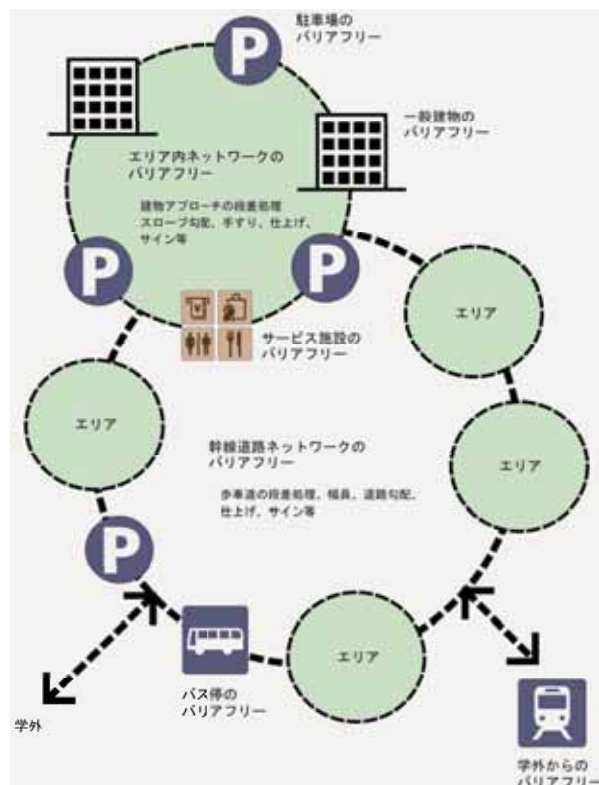


図1 キャンパスと周辺環境の連続性への配慮

1-2 バリアフリーのデザインガイドライン

理念を実現していくために、これから生じる建物・外部空間・ストリートファニチャーの整備について下記の配慮が必要である。**キャンパスマスタープラン**、ならびに**緑のフレームワークプラン**におけるデザインガイドラインと協調・連担すること。

1. 街路・街区構成について

◆街路の個性

キャンパスの個性を形成しうる街路、緑道などについて、それに面する建物のデザイン、街路樹の種類や樹形、路面の仕上げなどにある**程度の統一感・調和感**を与えていくことが有効である。

◆各部局エリアにおける配慮

各部局、各街区内を通り抜ける**歩行者の動線を維持・継承**する。駐車場やサービスヤードなどが通り道となっているエリアについては、優先的な整備が必要である。単に「通過できる」のではなく、気持ちよく歩けるような景観的な配慮、移動やわかりやすさへの配慮が必要である。

2. 建物について

◆エントランス性の明示

建物のどこから入るのが**自ずとわかるようなデザイン**の配慮が必要である。例えば、玄関アプローチにおける意匠的な舗装の選択、玄関ひさしやシンボルツリーによる目の引きつけ、夜間のスポット照明による「浮かび上がり」、ピロティやカバードプラザ（屋根下の小広場）による玄関まわりの開放性の確保などがあげられる。

◆建物内における活動の表出

「わかりやすさへの配慮」とは、単に移動目標を提示するばかりではない。人々がキャンパスを移動しながら、**様々な場所や建物で展開される人の風景**から、キャンパスにおける**教育・研究や学生達の活動の豊かさ**が伝わることも重要なのである。そのため、建物低層部にギャラリー、カフェ、談話スペース、ラウンジなどのパブリックスペースを設ける、開口部を極力開けるなどの配慮が必要である。

3. 照明について

◆人を導く

環境デザインとしての「照明」には、単に明るく照らすという役割よりむしろ、**人を導く**、あるいは**シンボル性**という意味がある。キャンパスの骨格を形成する歩行者動線、シンボリストリートについては、フットライトの連続による印象づけも必要である。

◆シンボル

キャンパスの「顔」となる学部空間や建物については、省エネルギーへの配慮をしつつも、可能な範囲で**照明による「演出」**をしていくことも考えられる。

4. 関連法令およびソフトウェア的解決について

◆関連法令の尊重ならびに新しい配慮の工夫

建物・外部空間の基本事項は「福祉のまちづくり条例」その他法令に準ずる。

ただし、配置の問題、ステイグマタイゼーション（特別な配慮を受けることがストレスにつながる）への配慮など、「福祉のまちづくり条例」で対応しきれない点については、建築のみならず、**社会的・心理的な観点からの検討**を加える。

◆ハードとソフトのバランス

エレベーターやスロープの設置が極度に困難な場合は、ハード的な解決よりむしろ、自動車利用や人による介助など、**運営的な解決**を指向する。

5. 知覚不自由者への対応

◆空間的な手がかりへの配慮

視覚・聴覚・触覚・嗅覚など、**五感への手がかり**を与えるようなデザインを常に検討する。例えば、視覚が不自由な人に対して、街路ごとの舗装の統一（方向感覚やメイン動線を歩いているという安心感への配慮）、突出した構造物まわりの舗装材の変更（独立柱の周りを砂利敷きにしておくと、衝突を回避できる）、動線の強調（例えば歩行動線を舗装、脇を芝生にしておくと、動線からの逸脱を知覚できる）など、足の触感を利用したデザインが有効である。

また、聴覚不自由者には、歩車分離が必要であり、建物内部では、文系総合研究棟のような「視線の抜け」を確保することが重要となってくる。

植物の香り、気にならない範囲での音は、視覚不自由者だけでなく、多くの人々にとってもキャンパスを印象づけるために必要であり、隔壁、防音壁などは極力設けないキャンパスづくりをしなければならない。

なお、視覚不自由者には全盲から弱視まで、不自由の程度が幅広く分布しており、**視覚不自由者にこそ、コントラストの強調や鮮やかな草花の選定など、「視覚的なデザイン」の考慮**が不可欠であることに留意しなければならない。

◆知覚補助設備の対応

視覚不自由者や聴覚不自由者に対して、音声ガイド案内、モニタによる映像・文字案内、エレベーターにおける緊急時の手話対応窓の整備など、様々な設備的対応も考えられる。莫大な費用を要するが、いずれ適切な時期に検討を始めることも必要である。

◆点字ブロックの系統化

本フレームワークプランでは、現在の整備状況や利用頻度を考慮し、整備対象街路を厳選しているが、新しく整備された建物内については条例に基づいた整備が進んでおり、当該建物が点字ブロックのネットワークから「孤立」した状況になっている。将来は、点字ブロックの整備対象街路を広げていくことも検討する必要がある。

I-3. バリアフリーのアクションプラン

次頁以降に、豊中、吹田、箕面の3キャンパスの屋外空間の調査と、具体提案をまとめる。

なお今後、視覚・聴覚不自由者への対応などについても、本格的な検討を始めていく必要がある。

I-3. バリアフリーのアクションプラン

I-3-1. 豊中キャンパス／外部空間バリアフリー調査結果・計画

ゆとりのある歩行空間であり、豊中地区のメインルートといえるが、駐輪スペースとして活用されているため非常に歩きづらい

道路の縦断勾配が急である
最急勾配*i*=19.0%

イ号館へ至る階段が急であり、高低差も大きい

道路の縦断勾配が急である
最急勾配*i*=12.0%

道路の縦断勾配が急である
最急勾配*i*=9.5%

スロープはあるが点字ブロック・手摺がない
自動扉になっていない

道路の縦断勾配が急である
最急勾配*i*=13.5%

石橋門の歩行者用出入口の幅が狭い *W*=1.0m

阪急石橋駅から石橋門へのアプローチ道路であり他のルートは無い。
道路の縦断勾配が急である
最急勾配*i*=11.0%

待兼山修学館
(総合学術博物館)

石橋口

大阪大学会館

建物のスロープ勾配*i*=6.8%

スロープに点字ブロック・手摺がない
踊場に柵がないため危険

スロープはあるが点字ブロック・手摺がない
玄関前段差に手摺・点字ブロックがない

放置自転車が溢れ、かなり通行しづらい

道路の縦断勾配が急である
最急勾配*i*=9.3%

路上駐車場として運用されている
余幅員は有効*W*=3.8m

車止めの間隔が狭く
車椅子使用者は、自由に入出り不可能

刀根山口

道路の縦断勾配が急である。
最急勾配*i*=6.0%

車止め間隔が狭く
車椅子使用者は、自由に入出り不可能。

道路の縦断勾配が急である。
最大勾配*i*=20.0%

道路の縦断勾配が急であり歩道も設置されていない
最急勾配*i*=9.5%
さらに、交差点では無理な擦り付け勾配になっている

食堂へのスロープ
縦断勾配*i*=7.0%

階段に手摺・点字ブロックがない
スロープが入口と直角で使いづらい

道路縦断勾配が急である
i=10.0%

道路縦断勾配が急である
i=16.50%

カフェテリア
らふおれ

学生交流棟

学生交流棟

学生会館

文法経本館

総合図書館

大学教育実践センター

体育館

国際交流会館

東口

基礎工学研究科

理学研究科

正門

柴原口

違反駐車車両が多い
放置自転車や違反車両が
大量に駐車している

道路の縦断勾配が急である
i=8.3%

柴原駅からのアプローチルートであるが、
最急勾配*i*=18.4%と非常に急である

車止め間隔が狭く、
車椅子は出入りできない

B-T-4

・道路の縦断勾配が急である 最急勾配*i*=14.0%
⇒スロープの設置

道路の縦断勾配が急である
最急勾配 *i*=12.5%

道路の縦断勾配が急である
最急勾配*i*=9.5%
(建物間の移動経路)

・歩道の有効幅員が狭い *W*=1.6m

メインルートへ連絡するスロープであるが、
有効幅員*W*=1.2m 勾配*i*=5.8%
車椅子1台がやっと通行できるだけのである

道路の縦断勾配が急である
最急勾配*i*=7.5%

図書館本館のアプローチ
最急勾配*i*=7.8%



H15. に指摘のあった東口の問題点は、H20年度工事により改善された。

B-T-2

・歩道の有効幅員が狭い *W*=1.1m
・生協へのアプローチ道路の勾配が急である *i*=12.8%
⇒幅員確保、スロープの改善

B-T-3

・誘導ブロックが途切れている
⇒サイバーメディアセンター及び図書館への誘導ブロックの設置
⇒横断歩道の設置



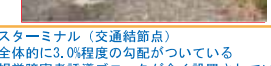
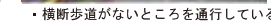
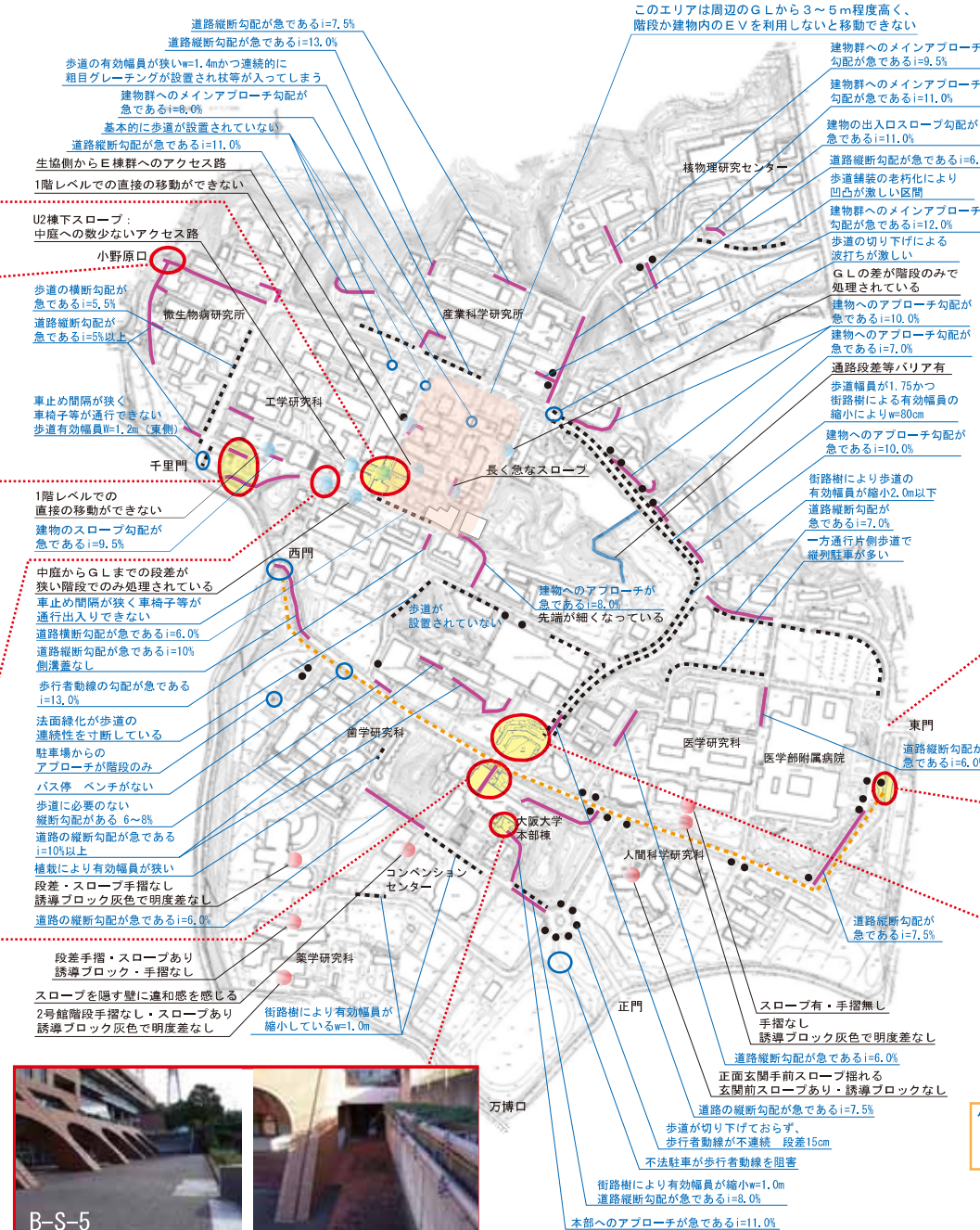
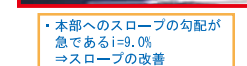
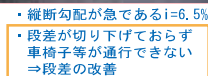
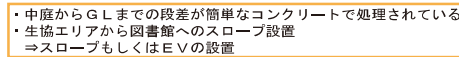
・歩道の有効幅員が狭い *W*=0.9~1.3m
(植樹等の影響もあり)



・正門外からの誘導ブロックが途切れている⇒誘導ブロックの設置
・歩道が不連続になっている⇒歩道をかさ上げ連続させる

- H15年 SPED-02※
- 青字：指摘事項
- ：特に擦り付け勾配や段差の大きな箇所
 - ：急勾配区間
 - ：歩道の幅員不足や横断勾配の不良箇所
 - ：放置自転車や違反駐車車両が多い場所
 - H19年度策定時 追記 (黒字)
 - ：現状の屋外通路での整備が望まれる場所
 - ：障害者からみて整備が望まれる場所
 - H19年度策定時 提案
 - ：視覚障害者用誘導ブロック
 - ：最優先すべき事項

※SPED-2とは、平成15年に策定された、「キャンパス環境整備計画・デザイン検討プロジェクト2」の略称。



H15年 SPFD-02※

青字：指摘事項

- ：特に擦り付け勾配や段差の大きな箇所
- ：急勾配区間
- ■ ■：歩道の幅員不足や横断勾配の不具合所
- ■ ■ ■ ■：放置自転車や違反駐車が多い場所

H19年度策定時 追記（黒字）

- ：現状の屋外通路での整備が望まれる場所
- ：障害者からみて整備が望まれる場所

H19策定時 提案

- ■ ■ ■ ■：視覚障害者用誘導ブロック
- ■ ■ ■ ■：最優先すべき事項

※SPEID-2とは、平成15年に策定された、「キャンパス環境整備計画・デザイン検討プロジェクト2」の略称。

- ・本部棟B1 EVホール入口設置
⇒誘導路の確保

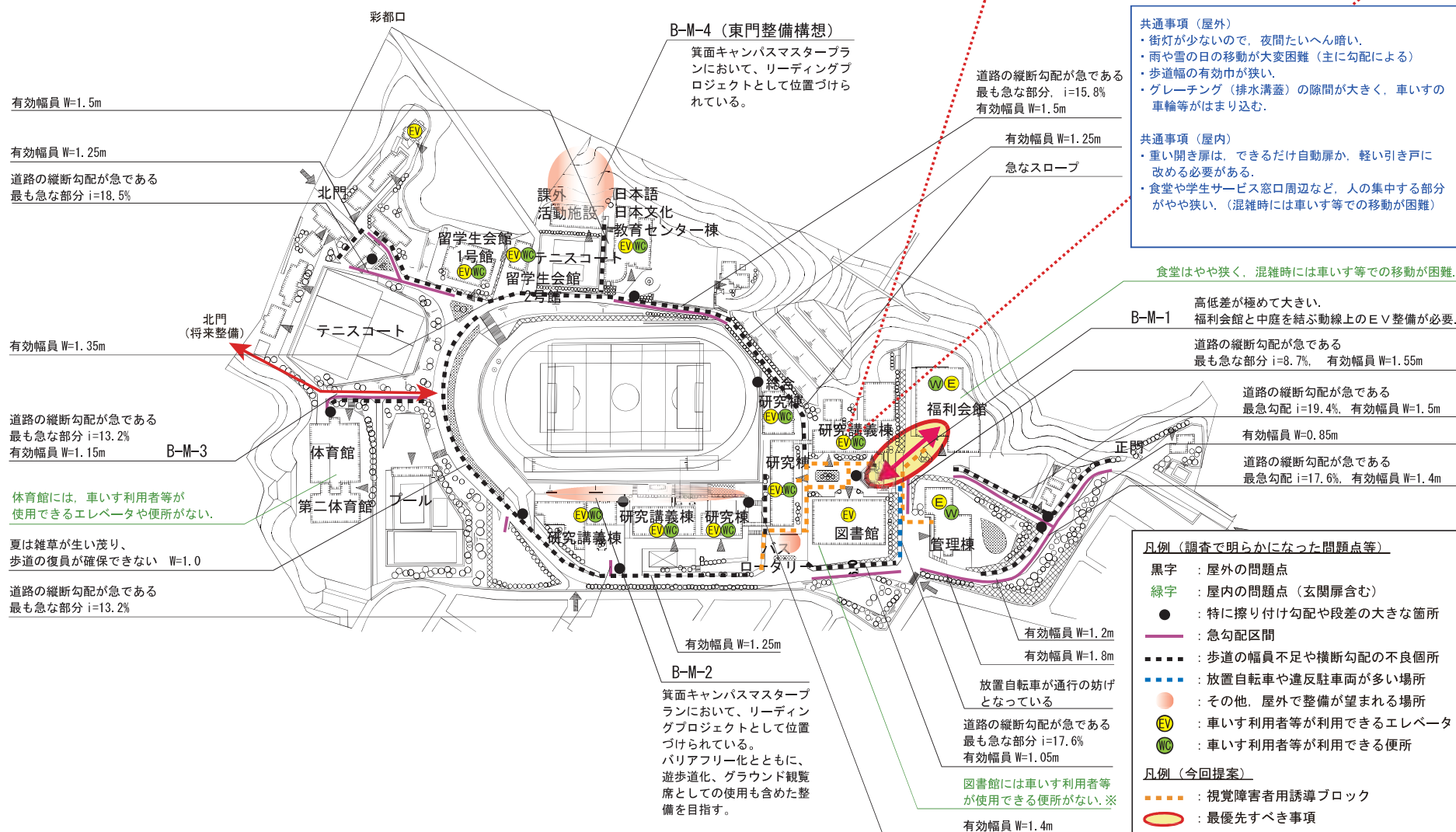
大阪大学 パリアフリーとサインの
フレームワークプラン

※一部、内部についても調査・言及している。



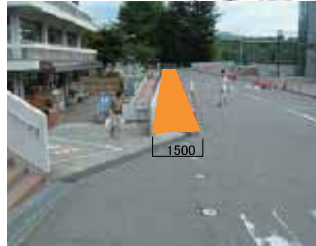
段差解消リフトは、介助が必要
(A棟2階講義室).

学生が集中する場所にもかかわ
らず狭い、またカウンター高い、

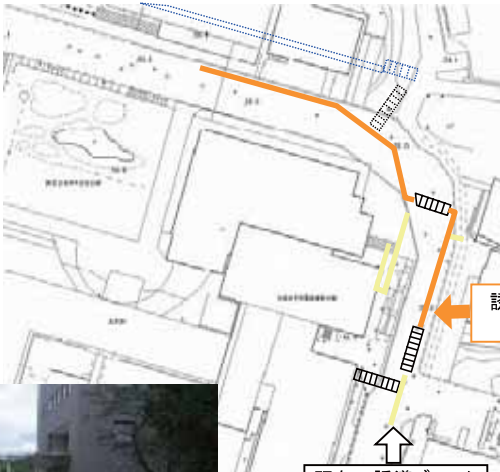


I-3-4. 豊中キャンパス各部改善提案

B-T-1	正門前～基礎工学部前付近
現 況	
	
正門外からの誘導ブロックが途切れている	
改 善 計 画 案	
誘導ブロックを設置する	
	
誘導ブロックを設置する	
既存の誘導ブロック	

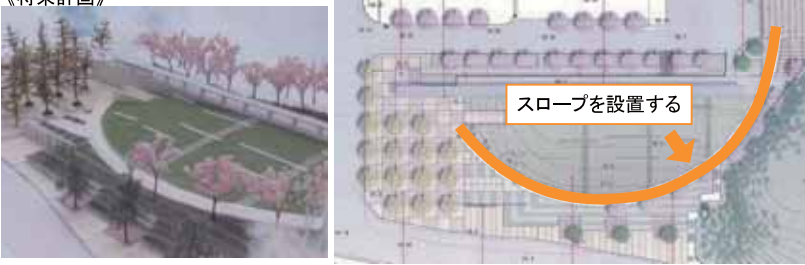
B-T-2	生協前・附属図書館本館前
現 況	
	
歩道の有効幅員がせまい スロープと歩道の連続性に問題あり	
既存の横断歩道(附属図書館本館前)	
改 善 計 画 案	
側溝をかさ上げて化粧蓋にし、歩道を拡幅する。 横断歩道の位置を見直し、新たに設置する。 誘導ブロックを設置し、既存のスロープや図書館入口への動線を確保する。	
将来歩道及び横断歩道を設置 《構内交通安全WG 交通安全対策(案)》 横断歩道の位置を見直す 誘導ブロックを設置し、 既存のスロープや図書館へ誘導する 横断歩道を設置する 側溝をかさ上げて化粧蓋にし、歩道拡幅する  	

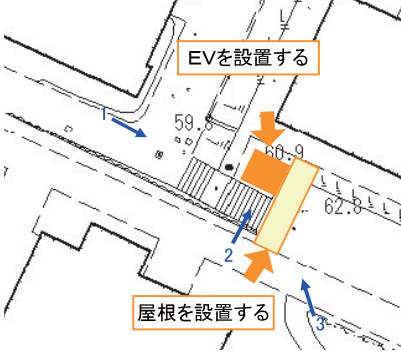
I-3-4. 豊中キャンパス各部改善提案

B-T-3	サイバーメディアセンター前
現 況	
	誘導ブロックが途切れている
改 善 計 画 案	
サイバーメディアセンター及び図書館への誘導ブロックを設置する。 横断歩道を設置し、図書館へは対面側のルートを利用する。	
 誘導ブロックを設置する 既存の誘導ブロック 	

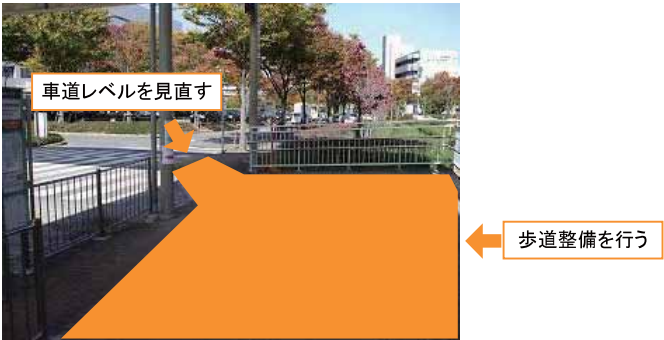
B-T-4	グラウンド付近
現 況	
	
道路の横断勾配が急である	
改 善 計 画 案	
《東口整備基本計画 案》 樹林地を抜けるスロープを設置する ベンチを設け交流スペースとする	
   スロープを設置する 	

I-3-5. 吹田キャンパス各部改善提案

B-S-1	千里門付近
現 況	
 段差が切り下げておらず、車椅子等が通行できない	
改 善 計 画 案	
◎最優先対策案 歩道の段差を切り下げ、車いす等が歩道を通行できるようにする ○将来計画 スロープを設置する《千里門周辺整備計画 案》	
《最優先対策案》   《将来計画》  スロープを設置する	

B-S-2	工学部・生協エリア～中庭
現 況	
 中庭からGLまでの段差が簡単なコンクリートで処理されている 中庭・図書館エリアは3～5m程度高く、階段か建物内のEVを利用しないと移動できない	
改 善 計 画 案	
スロープもしくはEVを設置する EVを設置する場合、回廊と連続する屋根を設置する。	
   EVを設置する 屋根を設置する	

I-3-5. 吹田キャンパス各部改善提案

B-S-3	大阪モノレール阪大病院前駅 出入口
現 況	
	駅舎から附属病院への動線において横断歩道のすりつけが急である
改 善 計 画 案	
歩道整備を行う 車道レベルを見直しする	
	

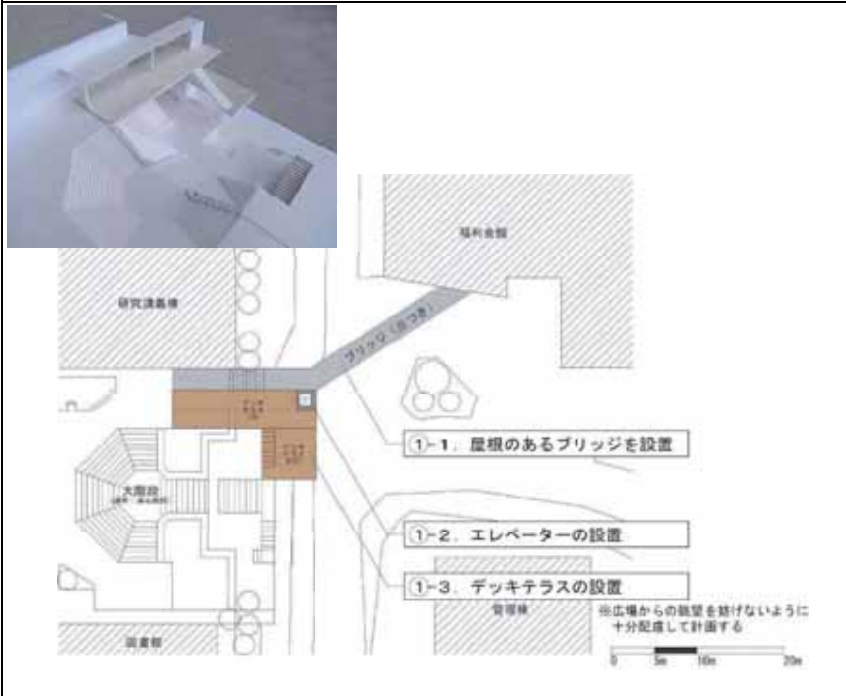
B-S-4	バスターミナル
現 況	
	
全体的に3.0%程度の勾配がついている 誘導ブロックが設置されていない	
改 善 計 画 案	
歩道の勾配を改善し、誘導ブロックを設置する	
	

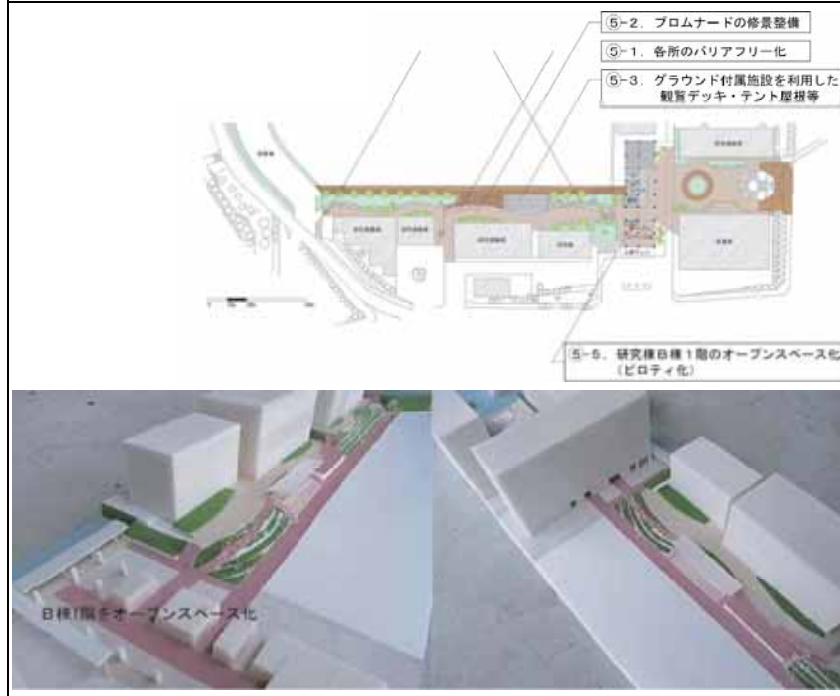
I-3-5. 吹田キャンパス各部改善提案

B-S-5	本部共通棟 B1階
現 況	
	
改 善 計 画 案	
EVホール入口を設置する それに伴う誘導ルートを整備する	
	

B-S-6	本部共通棟 西側スロープ
現 況	
	本部へのスロープの勾配が急である
改 善 計 画 案	
《本部共通棟プロムナード整備計画 案》 スロープの位置を変更し、勾配を調整する	
	

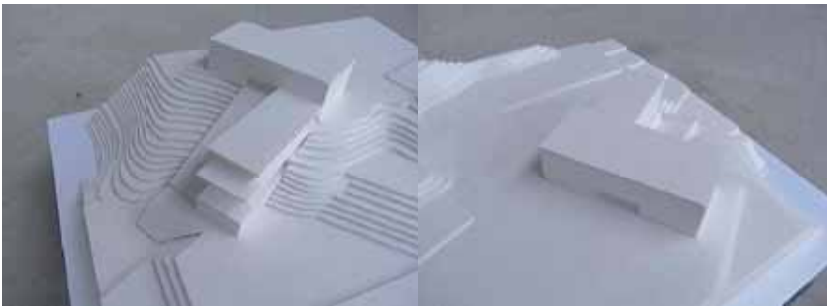
I-3-6. 箕面キャンパス各部改善提案

B-M-1	福利会館～中庭
現 況	
	
6mにもおよぶ高低差がある。	
改 善 計 画 案	
箕面キャンパスマスタープランにて、リーディングプロジェクトに挙げられている。 1. 屋根のあるブリッジを設置、2. エレベーターの設置、3. デッキテラスの設置	
	

B-M-2	研究講義棟B棟～E棟
現 況	
	
各所に2m～3mの段差がある。	
改 善 計 画 案	
箕面キャンパスマスタープランにて、リーディングプロジェクトに挙げられている。 1. 各所のバリアフリー化、2. プロムナードの修景整備、3. 観覧デッキ等、4. B棟1階のOS化	
	

I-3-6. 箕面キャンパス各部改善提案

B-M-3	体育館周辺
現 況	
- 歩車分離が一部しかされておらず、また、歩道がある部分でも、その幅員が狭く、かつ勾配が急。横断勾配・ひねり部分もある。 - 道路全体として幅員が不足しているので、新北門整備時には、全体として拡幅が必要。	
	
改 善 計 画 案	
箕面キャンパスマスタープランにて、リーディングプロジェクト(新北門整備)に挙げられている。	
新北門整備(マスタープランのリーディングプロジェクト)時に合わせて、歩道を整備、拡幅する。	
	

B-M-4	東門新設
現 況	
	
- 彩都西駅方面に対して、スロープでアプローチできなかったが、h21年度に彩都口が完成② - 彩都西部中央公園方面へ抜けるルート(①東口)も、整備が望ましい。	
改 善 計 画 案	
箕面キャンパスマスタープランにて、リーディングプロジェクトに挙げられている。 	
	
ゲート前広場側から新東門側を見下ろす リザーブ用地側から見下ろす	

□ 第Ⅱ部 サインのフレームワークプラン

Ⅱ-1. サインのフレームワークプランにおける理念

サインとは、来訪者に対する、キャンパス内における位置表示、建物等への誘導、および、建物等の名称表示の役割を持った案内標識類のことである。広大かつ多部局が共存するキャンパス内にあって、わかりやすく、考え方が整理された、かつ、美しい表示体系を実現することを目標とする。

1. ヒエラルキーの明確化

本学のような広大なキャンパスは、都市に見立てることができる。全ての部局に対して矢印などで誘導するサインを設けることは、いわば「街中の全ての建物への矢印案内標識を設置する」ことに近い。無闇に多い誘導矢印は、かえって目的建物や部局を見つけることを難しくするであろう。キャンパス内にあっては、サイン計画に明確なヒエラルキーを与えることが重要である。

なお、本指針では、歩行者に対応したサイン整備を主とするが、自動車利用者に関しても、付属病院への出入りや、特段の結節点への行き先誘導表示、あるいはキャンパス出構時の方面表示などに配慮する。

2. 多様な人々への配慮

キャンパスを訪れる様々な人々にとって理解しやすく、目的の建物へのアクセスがしやすいサイン計画をめざす。このために、設置位置、向き、高さ、日英2言語表記はもちろんのこと、車椅子に配慮した高さや、弱視、色弱でも見やすい色彩や、必要に応じて朝鮮語、中国語その他言語への対応なども検討が必要である。

3. インフォメーションセンター

キャンパス出入口をはじめとする各所にキャンパス全体図を表示することも大切だが、同時に、門衛所のある主な門では、門衛所そのものが、また、各部局にあっては主要な窓口が、インフォメーションセンターの役割を果たすことも必要である。

Ⅱ-2. サインのデザインガイドライン

Ⅱ-2-1. サインのヒエラルキーと配置の考え方 (p19～21 に各キャンパスにおける配置図を示す)

本学のサイン計画は、「誘導標識」(矢印によって個別建物へ誘導する標識)よりも、キャンパス内の地図をベースにした全体地図標識・部分地図標識を主体として構成する。その上で、個別の建物へ矢印で誘導する「誘導標識」は、公共性の高い建物に絞って表示することが必要であると考えられる。

◆全体地図標識 (全キャンパス表示) :

キャンパス全体の地図をベースにした標識である。

- ・標記内容 共通施設、全部局、主要街路、交通施設、地理情報など
- ・設置場所 キャンパスの主要な出入口 (門)、
その他来訪者がはじめてキャンパスに接する場所
(バス停、モノレール駅など)、
主要結節点 (主要構内通路交差点、屈曲点など)

◆部分地図標識 (サブエリア表示) :

建物群のまとまり (場合により複数部局または単一部局) を「サブエリア」として設定し、そのエリア内の案内を主目的とした標識。

- ・標記内容 サブエリア内の主要な全建物の名称、符号
- ・設置場所 サブエリアへの導入部や、エリア内部の結節点に配置する

※なお、工学研究科などの広大な部局にあっては、部局内にて独自のサインシステムを、部分地図標識に準じる本指針のサブシステムとして設置することも許容する。



◆誘導標識：矢印などで特定の施設の方向を指示する。

- ・標記内容 **非常に公共性の高い共通施設、交通施設に限定する。**
- ・設置場所 目標建物からおおむね200m程度以内の、主要な交差点。
その標識を見たあと、比較的すぐに、目標建物や、下記の施設標識が認識できる程度とする。

*既存の誘導標識は次の理由から役に立たないと判断し、部分地図標識への転用を進めていく。

- ・現状の文字による誘導標識は、文字量が多すぎるため目標の施設名称を見つけるのが難しい。
- ・また、小規模な部局・施設は表記されていないため、これらを目標とする来訪者を混乱させるものとなっている。

◆自動車用誘導標識

- ・自動車用誘導標識は、自動車から、またある程度の離れた位置から見やすいことが必要であるため、高所への設置を基本とする。
- ・全ての部局・建物を案内するのではなく、外来者の多い主要な部局・建物についての案内とする。
- ・設置箇所と表示内容は図を p24、p. 29、p. 31 に示す。
- ・細部の案内については、門衛所警備員が対応する。
- ・また必要に応じて、自動車がキャンパスから出構するときに方面を案内する表示、路面サインの設置も検討する。
- ・自動車誘導標識におけるPマーク表示は、共用性の高い駐車場に限って表示、誘導する。なお、駐車場には、大きくわかりやすいPマークや、車椅子マーク等を表示する。

◆街路名称標識

- ・II-2-2. で定める街路名称を表示する標識である。吹田キャンパスに現在設置されているものをモデルとし、より視認性が高い、情報更新が容易なデザインとする。
- ・今後、街路名称がより親しまれるように、デザインの工夫を行う。

◆各部局のシンボルとなるサイン

- ・案内機能よりも、部局の個性、部局の正面玄関性、モニュメント性を表現するサインである。
- ・今までの各部局の歴史、イメージカラー、キャンパス全体のイメージ、その他経緯を踏まえ、設置を検討する。
- ・できるだけ各キャンパス一斉に設置することが望ましいが、建物・周辺外構整備時にも、設置を検討する。
- ・現在の建物意匠との調和に配慮しながら、今後の街区・部局の個性や、デザインコードの強化を目指して検討する。



写真：部局のシンボルとなるサインの例
(基礎工学研究科)

◆施設標識：個別建物周囲における、その建物の案内表示。

- ・当該施設エントランスまわり（外壁に設置。場合によっては独立式）に設置する。
入口が奥まっている場合は、主街路にアピールするように、独立式の標識設置も検討する。
- ・建物中上層部には極力設置しない。

◆その他、特別な標識

阪大坂における「大阪大学」の銘板、石橋門の石柱など、シンボリックな意味あいをもつもの。新規に設置する場合は、設置位置の周辺環境との調和、ならびに各キャンパスのデザイン的な文脈を考慮した検討を行う。現在のところ、豊中キャンパスでは、石・さび塗装など「伝統性」の感じられるもの、吹田キャンパスでは、金属パネルなど「先進性」の感じられるデザインが指向されており、これに対する調和も考慮に入れる。キャンパスと地域の接点、例えば阪大坂下、千里門などでは、地域全体の案内図や、人文社会的な資源の情報を組み込むことも考えられる。

また、構外にあっても、例えば箕面キャンパス構外における茨木勝尾寺線交差点への案内設置（p. 21 参照）のように、キャンパスへの誘導にあたって重要と考えられるものは、適宜、道路管理者等と交渉し、設置を検討する。

II-2-2. 個別サインのデザインガイドライン

◆設置位置

- ・歩行者の目につきやすく、歩行の妨げにはならない場所
- ・植栽などの成長の可能性に留意
- ・マナー違反駐車・駐輪の影響を受けにくい場所
- ・標識利用者が他の歩行者の歩行の妨げにならない位置

◆表示面の高さや向き

- ・高齢者・車椅子利用者の視線にも配慮
- ・高さを極力統一する（視認の継続性に配慮）
- ・歩行者の動線からの誘目性に配慮する

◆形態・色彩など

- ・全体地図標識（全キャンパス）と部分地図標識（サブエリア）は、それぞれ同一の（または極力類似させた）形態と色彩を採用する。（発見・視認のしやすさに配慮）
- ・施設標識は当該建物のデザインと同調させてもよい（特に統一した形態・色彩は設定しない）。



全体地図標識のデザインイメージ



部分地図標識のデザインイメージ



誘導標識のデザインイメージ



街路名称標識のデザイン例



注意・警告標識のデザイン例



仮設的なサインのよくない事例

※ デザインや表示内容の詳細は、発注時に関連部局と調整して決定する。

「特別な標識」を除き、サインの素材・色彩は極力統一する。既存のサインの色調・デザインに同調させる（デザインの向上・改善を指向するものであれば、全く同じ規格でなくてよい）。また、夜間でもできるだけ見えるような配慮をする。部局が独自に設けるサインについては、部局ごとのデザインコードを設定した上で、整備を行う。さらに、C S C Dのオレンジ、工学部のブルーなど、イメージカラーを部局ごとに設定し、地図標識、誘導標識などの表記に反映させることも考えられる。

◆表記

- ・全体地図標識はすべての部局と共通施設を表記する。
- ・部分地図標識は、当該エリアの具体的な棟名称を表記する。主要部局の方向も表記する。
- ・ホームページや大学のパンフレットと同じ名称・符号を採用する。
(ホームページの方が不適切な場合は、ホームページを改善することもある必要)
- ・日・英2言語表記はもちろんであるが、必要に応じて、朝鮮語、中国語などの多言語表記や、点字表示も検討する。また、弱視や色弱に配慮したコントラストにも注意する。

◆モニュメント・記念碑の役割を兼ねるものについて

- ・設置位置、形態、素材、色彩などはモニュメントとしてのコンセプトに配慮する
- ・豊中キャンパスでは、石材、鍍塗装など、経年を意識したデザインが多い。吹田キャンパスでは、金属系の「先進性」を意識したデザインが多い。これらの脈絡にも十分配慮する。

◆自動車用誘導標識について

- ・遠方からも見えやすいよう、街路上部に設置する。
- ・現有標識を活用・補完し、適宜表示内容を整理・統合する。
- ・吹田東門（病院前庭）など、交通に混乱が見られる部分では、交通流の円滑化を意図してサインを設置する。
- ・自動車がキャンパスから出構するときに方面を案内する表示等は、できるだけ市街地において道路管理者が設置する標識に準拠したデザインとする。

II-2-3. インフォメーションセンター

◆門衛所の案内所化からはじめる

北欧先進国では、ハード整備よりも人によるサポートが主流であり、私たち日本でもソフト面での対応が有効であることを体験している。まずは、門衛所での案内サービスを開始し、また、マスタープラン・リーディングプロジェクトなどにインフォメーションセンターの整備を組み込んでいく必要がある。

◆各部局管理オフィスのセミパブリック化

各部局・エリアにおける管理事務部門（の一部）を、当該エリアへの入り口または動線上重要

な位置に配置し、かつ、可能な限り外部または建物玄関付近に面するよう配慮する。管理事務部門のメンバーが案内の対応をすることができれば、サインに不慣れな来訪者にとって、人的な案内をすることが可能になる。

II-2-4. メンテナンスと情報更新への配慮・対応

- ・経年劣化、または植栽等で隠れる、あるいは名称改変に追従できていない等の問題が無いか、1年毎に点検し、維持、更新（部分修正も含む）する。
- ・部分地図標識はケース式として表示面をケース内に納めるなど、部局名等の改変に対応できる形態がのぞましい。ケース式でないサインについては、表示面の更新に配慮したものを選定する。
(現在の誘導標識を部分地図標識に再利用する場合も同様)
- ・大面積の表示面は、グリッド分割等により部分的更新に対応できるように工夫をする。

II-2-5. デザインガイドラインの運用について

◆不要な、または見苦しい標識、案内類の撤去あるいは更新

- ・キャンパス内の標識、案内類には、情報の古いもの、重複してかえって見にくいもの、仮設的で見苦しいものが多く存在する（注意・警告標識に多い・前頁参照）。これらは今後、本ガイドラインに基づき、順次撤去・更新をはかる。施設部は、各部局キャラバン時などに、これらの問題点を指摘することとする。

◆キャンパスデザイン室の監修

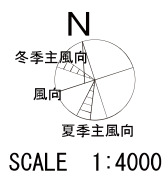
- ・新規に設置する案内、標識、掲示板類は、その発注に先だってキャンパスデザイン室の監修を受けることとする。

◆各部局と本部の役割

- ・公共性の高い「全体地図標識」、「部分地図標識」、「誘導標識」、「自動車用誘導標識」、「街路名称標識」「その他特別な標識」は、原則として本部にて整備（設置、点検、維持、更新）をする。
- ・「施設標識」その他、部局内で必要と認める標識類は、原則として各部局にて整備（設置、点検、維持、更新）を行う。



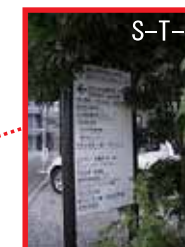
II-3-1. サインのアクションプラン／豊中キャンパス改善計画



・大学案内板を改善する



・部分地図標識に変更する



・部分地図標識に変更する

凡例

- 全体地図標識 (新設)
- ◎ 全体地図標識 (標識フレームのデザイン上、キャンパスの顔となるように、特に配慮するもの (表示内容は一般の全体地図標識と同じ))
- 全体地図標識 (既存利用)
- 部分地図標識 (新設)
- 誘導標識 (待兼山修学館 (総合学術博物館))
- 誘導標識 (イ号館)
- 誘導標識 (総合図書館)
- ① インフォメーションマーク (警備員による一言案内とキャンバスマップの配布)
- 優先すべき事項

S-S-2

ガードマンボックスへ
インフォメーションマークを設置する (3ヶ所)

柴原口の整備計画策定を行う

II-3-2. サインのアクションプラン/吹田キャンパス改善計画

凡例

- 全体地図標識 (新設)
- 全体地図標識 (標識フレームのデザイン上、キャンパスの顔となるように、特に配慮するもの (表示内容は一般の全体地図標識と同じ))
- 全体地図標識 (既存利用)
- 部分地図標識 (新設)
- 部分地図標識 (既存利用)
- 誘導標識 (生命科学図書館)
- 誘導標識 (理工学図書館)
- 誘導標識 (医学部付属病院)
- 誘導標識 (阪大本部前バス停)
- 誘導標識 (本部事務局棟)
- 誘導標識 (コンベンションセンター)
- 誘導標識 (体育館)
- 誘導標識 (歯学部付属病院)
- ① インフォメーションマーク (警備員による一言案内とキャンパスマップの配布)
- 優先すべき事項



・バスロータリー北側ポンプフェンス付近に、掲示板を整備する



S-S-2

・全体地図標識を設置する



S-S-3

この場所での自動車用誘導標識については、p. 29 参照。



S-S-4

・記載内容を改善する
・周辺エリア案内板を設置する



S-S-5

・歩道側にもサインを記載する



・医学部前停留所の上屋を設置する



S-S-6

・東西通りに歩道照明柱を増設する



S-S-7

・歩道側にもサインを記載する



S-S-8

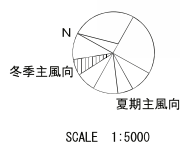
S-S-1

ガードマンボックスへ
インフォメーションマークを設置する (4ヶ所)

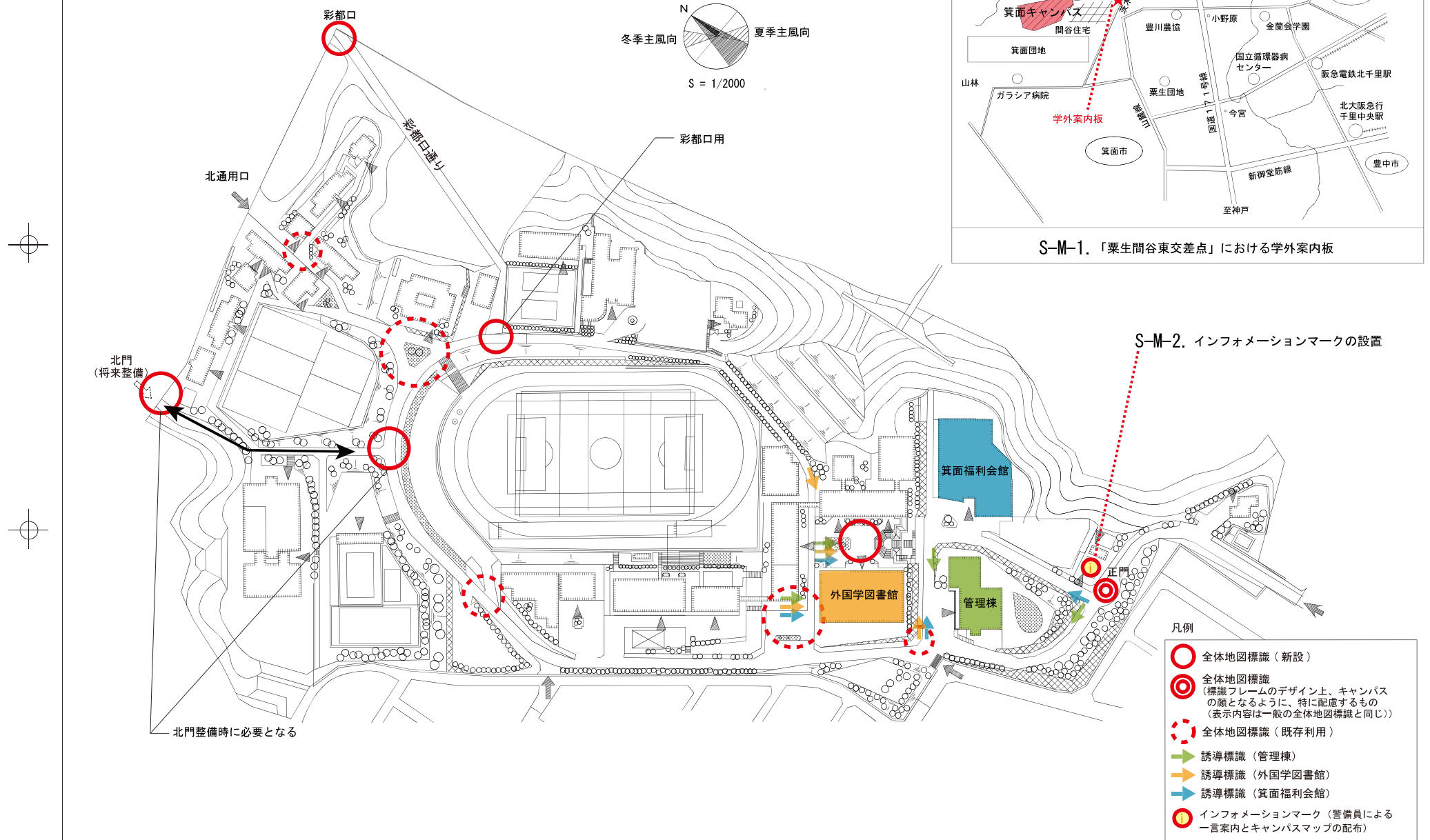


S-S-8

・部分地図標識+誘導標識に変更する



SCALE 1:5000



Ⅱ-3-4. サインのアクションプラン／豊中キャンパス各部改善提案

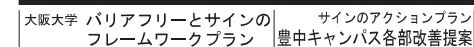
S-T-1	阪大坂下交差点
現 況	
	
案内板がわかりにくいいため、進入しにくい	既存仮設標識が老朽化している
改 善 計 画 案	
既存仮設標識を撤去し、既存標識下部に周辺地図を設置する。 敷地境界線から公園入口角までの舗装の色および仕上げを変える。 * 実施設計段階で、適正な舗装色、仕上げを選択する。	
	
周辺地図600×1800を既存標識支柱に取付ける。 高さは公園フェンスの天端に合わせる。	
	

S-T-2	インフォメーションマークの設置
現 況	
	外来者に対する インフォメーションコーナー等は設置されていない
改 善 計 画 案	
ガードマンボックスにインフォメーションマークを設置する → 警備員による一言案内やキャンバスマップの配布を行う	
	
《設置事例》	

S-T-3	グラウンド入口付近
現 況	
	
既設の誘導標識では行き先がわかりにくい	
改 善 計 画 案	
表面のシートを張り替えて、全体地図標識・部分地図標識として再利用する。	
	
全体地図標識 のデザイン例 部分地図標識 のデザイン例	

S-T-4	基礎工学部 1棟南側
現 況	
	
既設の誘導標識では行き先がわかりにくい	
改 善 計 画 案	
表面のシートを張り替えて、全体地図標識・部分地図標識として再利用する。	
	
全体地図標識 のデザイン例 部分地図標識 のデザイン例	

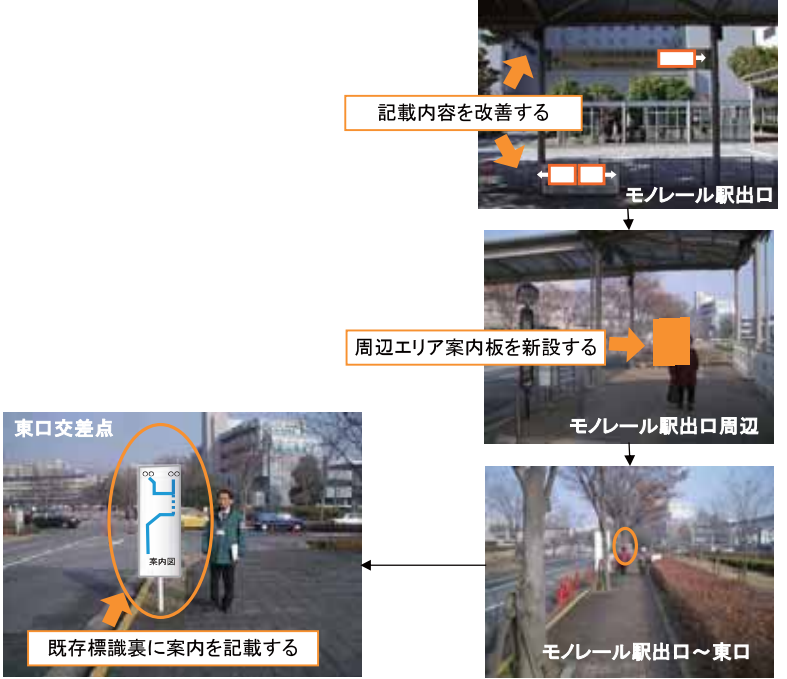
S-T-5. 豊中キャンパスでの自動車用誘導表示設置箇所



S-S-1	インフォメーションマークの設置
現 況	
	外来者に対する インフォメーションコーナー等は設置されていない
改 善 計 画 案	
ガードマンボックスにインフォメーションマークを設置する →警備員による一言案内やキャンパスマップの配布を行う	
	
《設置事例》	

S-S-2	バスロータリー北側 ポンプフェンス付近
現 況	
	仮設の掲示板が常時置かれている
改 善 計 画 案	
仮設の掲示板を撤去し、掲示板を新設する	
	
	
《設置事例》	

S-S-3	サイバーメディアセンター本館前
現 況	
	案内板等が設置されていない
改 善 計 画 案	
総合案内板を設置する	
	

S-S-4	大阪モノレール阪大病院前駅～東口交差点
現 況	
	
モノレール駅出口	東口交差点
既存のサインでは行き先が分かりにくい	駐車禁止の標識が設置されている
改 善 計 画 案	
モノレール駅出口周辺については、サインの記載内容を改善し、周辺エリア案内板を新設する。 東口交差点のサインについては、既存標識の裏に案内板を設置し、対象部局への案内を記載する。	
	

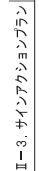
S-S-5	生命機能研究科 ナノバイオロジー棟前
現 況	
	
既設のサインは車道側にしか記載がない	
改 善 計 画 案	
歩道側にもサインを記載する	
	

S-S-6	東西通り
現 況	
	
歩道照明柱が少ない	
医学部前の歩道が夜間暗い	
改 善 計 画 案	
歩道照明柱を増設する	
《設置事例》 	

S-S-7	福利会館付近
現 況	
 既設のサインは車道側にしか記載がない	
改 善 計 画 案	
歩道側にもサインを記載する	
	

S-S-8	本部共通棟 西側スロープ付近
現 況	
 既存のサインでは行き先が分かりにくい 周辺エリア案内板が擁壁上に設置されている	
改 善 計 画 案	
- 歩道レベルの見やすい位置に移設する(定位標識) - 歩道から見やすい位置に誘導標識(コンベンションセンター)を設ける 	

S-S-9. 吹田キャンパスでの自動車誘導表示設置箇所



S-M-1	「粟生間谷東交差点」における学外案内板
現 況	
茨木勝尾寺線から車で箕面キャンパスに来る人は、このT字交差点を見落とすと、キャンパスにたどりつくことができない。 彩都開発以前は、写真奥の土地所有者好意により、「一大阪外国語大学」の看板が設置されていた。	
	
改 善 計 画 案	
彩都開発にともない、看板設置場所が分譲地となってしまったので、交差点対面の緑地帯（写真参照）の中への設置を検討する。 緑地帯の管理者（道路管理者）に対する協議が必要となる。	
	

S-M-2	インフォメーションマークの設置
現 況	
	
案内所の明示がない	
改 善 計 画 案	
矢印の面（守衛所外壁）にインフォメーションマークを設置する	
	
	
設置参考事例	

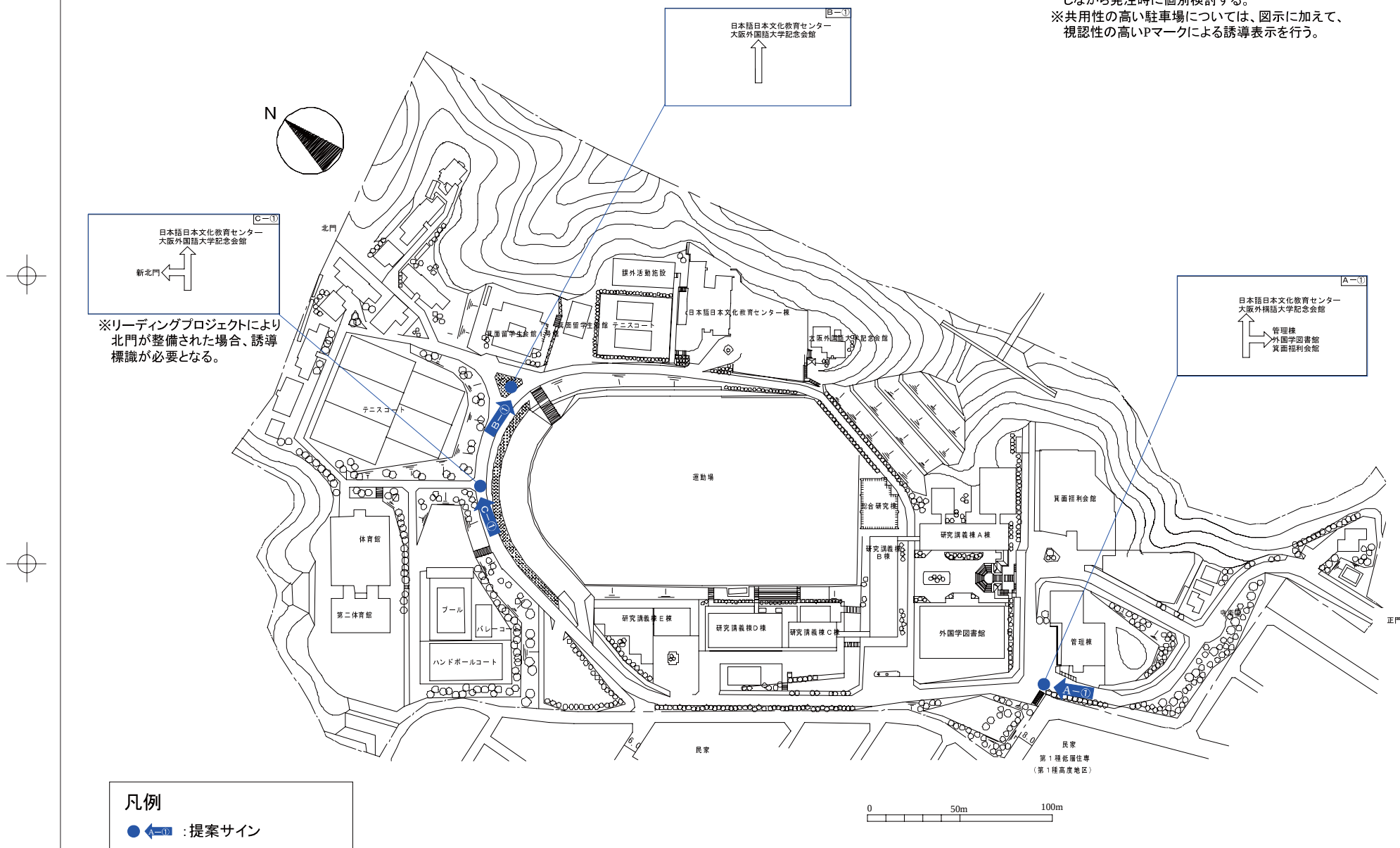
II-3-6. サインのアクションプラン/箕面キャンパス各部改善提案

S-M-3. 箕面キャンパスでの自動車誘導表示設置箇所

※本ページは、箕面キャンパスの活用方針の設定を
保留とした暫定版として提案とする。

※デザインは別途既設に合わせて、関連部局と調整
しながら発注時に個別検討する。

※共用性の高い駐車場については、図示に加えて、
視認性の高いPマークによる誘導表示を行う。



□ 第Ⅲ部 建物の名称表示のガイドラインと主要街路の名称

Ⅲー 1. 建物の名称表示のガイドライン

Ⅲ-1-1. 本ガイドライン策定の目的

本ガイドラインは、キャンパス内の建物の名称について、利用者にわかりやすく、愛着を持たれるものにするために、その命名方法について定める。なお、既存の建物については、一部の類似する名称による混乱のあるものを除き、当面は現行の名称を継承するが、キャンパス内の案内標識（サイン）やパンフレット・ホームページ内のキャンパスマップにおける表記については、このガイドラインにしたがった名称を用いることとする。

Ⅲ-1-2. ガイドラインの対象建物と対象街路

講義棟、研究棟、実験棟、事務棟、福利厚生棟などに適用する。

100㎡程度未満の小規模な倉庫、保管庫、ポンベ庫、廃棄物置き場等に類するものには特に定めない。

Ⅲ-1-3. 命名方法（建物名称）

（１）原則

- ・建物名称は表１の４タイプのいずれかの命名方法とし、既存の建物名称との類似をさけることを原則とする。

表１ 建物名称のタイプと命名例

建物名称のタイプ	建物名称の例
組織優先型	「組織略称」＋「符号」 「基礎工学H棟」、「工学R 1棟」など
	「組織略称」＋「用途」 「レーザー研ベレット棟」など
	「組織名」 「保健センター」、「低温センター」など
用途優先型	「用途名」 「電子プロセス実験室」、「職員会館」など
	「用途名」＋「符号」 「看護師宿舎 1号棟」など
シンボル型	個性的な名称 「ウェストフロント」、「GSEフロント」、「待兼山修学館」
	名称利用の定着、歴史性 「学生会館」、「学生交流棟」
総合型	「豊中総合学館」「総合研究棟」

- ・基本的に「組織優先型」とし、「組織略称」＋「符号」、または「組織略称」＋「用途」とする。ただし当該組織の建物が将来にわたって１棟のみの場合は、「〇〇センター」など組織名をそのまま建物名称としてよい。
- ・全学共同利用施設や、用途が特殊な施設については、「用途優先型」を使用する。
- ・「シンボル型」は、公共性の高い建物に限定する。なお、福利厚生系建物の名称は現状では類似したものが多く、公共性も高いことから、「シンボル型」の名称に改称することが望ましい。
- ・「総合型」は極力使用しない（各キャンパス１棟までが望ましい）。

（２）「組織略称」について

- ・次のような略称を用いる。「基礎工学」、「実践センター」、「微研」など。
「基」、「実践セ」、「微」などの極端に略したものは呼びにくく、意味不明となる恐れもあるため、呼称としては避けることが望ましい。

（３）「符合」について

- ・各組織に複数棟ある場合は、組織名の次に符号を付ける。
- ・符号は、アルファベットの大文字が望ましいが、組織の事情に応じて、数字、「本館」、「別館」等の表記、カタカナなどを用いてもよい。

（４）宿舎・寮の名称について

- ・「国際交流会館」、「〇〇寮」、「〇〇宿舎」、「留学生会館」などの系統があり、これらの再編・統一も検討する必要がある。例えば、「キャンパス名（豊中、吹田、箕面）」＋「〇〇寮（学生寮、留学生会館など）」＋「符号（A、B・・・）」の組み合わせなど。
「〇〇寮」など定着している名称は継続することも考えられるが、とくに箕面キャンパスの宿舎・寮の名称は混乱しているので再編を検討することが望ましい。

（５）組織における建物増設への対応

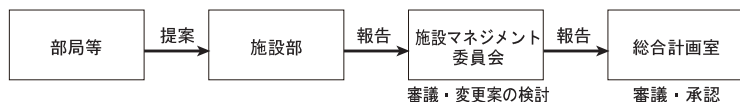
- ・将来、２棟目以降の整備が予測される場合は、あらかじめ「組織略称＋A棟」としておくことが望ましい。この時、２棟目は「組織略称＋B棟」となる。

（６）英語表記について特に注意すべき内容

- ・英語表記の場合の「組織略称」は以下の考え方を参考に各管理局において定めることとするが、省略の仕方によっては誤解を生じる恐れがあるため、必ずしも略称を用いる必要はない。なお、部局等名称の英語表記は、国際交流委員会による「英語表記用語集」（平成 22 年 6 月）に準拠する。
- ・「組織略称」の英語表記には、下記のような例が考えられる。
（例 1：先頭数文字型） 工学部・研究科（英語略称例） Eng. または Engi. または Engineering
（建物名称表示例） Eng. S1 (building) 工学 S 1 棟
（例 2：頭文字型） 臨床医工学融合研究教育センター
（正式英語部局名称 The Center for Advanced Medical Engineering and Informatics）
（英語略称例） MEI center
… このように既に比較的定着していると考えられる場合は、この方法でも良いが、一般には省略のしすぎは混乱を招きやすい。定着度が低い場合は、Medical EI center などの表現の工夫が必要と思われる。
- ・International を Int'l と表記するなど、英語圏で定着しているものはその略称方法を用いる。
- ・日本語名称との整合性に、できるだけ配慮する。

Ⅲ-1-4. 新築建物の名称決定フロー

- ・部局等から提案された名称を、施設部が施設マネジメント委員会へ報告する。
- ・施設マネジメント委員会でチェックし、総合計画室に報告する。



Ⅲ-1-5. 建物名称の再編

施設マネジメント委員会を中心として、下記のような検討・調整が行われ、表に示す建物名称表示再編が行われることとなった。

平成 21 年 4 月 総合計画室より、施設マネジメント委員会に対し、建物名称表示に関して整理をするよう依頼があり、委員会での検討を開始

22 年 1 月 福利関係施設の名称（および主要な街路名称）案について、KOAN によるアンケート調査

22 年 5 月 施設マネジメント委員会案とりまとめ

22 年 6 月 各部局へ、委員会案（および本フレームワークプラン第Ⅱ部ダイジェスト版）を照会

22 年 7 月 部局回答を整理・調整

22 年 9 月 施設マネジメント委員会にて部局回答調整結果を審議

◆豊中キャンパス		再編による施設名称	旧印はガイドライン適用外（変更せず）
管理部局等	棟番号	再編による施設名称	H21年度末時点の施設名称
総務部	014	大阪大学会館	イ号館
	235	音楽山会館	同左
国際部	188	国際交流会館 A B 棟	国際交流会館
	232	国際交流会館 C 棟	第 2 国際交流会館
学生部	184	豊中福利会館	福利センター
	190	運動用具庫	学生部運動用具庫
	601	弓道場	同左
	625	学生会館	同左
	625	音楽館	同左
	190	体育館	同左
	161	体育管理棟	同左
	166	音楽練習室 2	中央ボーイラビ
	173	音楽練習室 1	音楽練習室
	175	音楽	同左
	176	音楽	同左
	194	学生相談室	同左
	195	体育管理室	同左
	199	刀根山寮 A 棟	同左
	200	刀根山寮 B 棟	同左
	201	刀根山寮 C 棟	同左
	212	健康体育研究棟	同左
	239	学生食堂（ふるあおれ）	同左
	251	学生食堂	同左
	174	弓道場更衣室	弓道場更衣室
	177	弓道場更衣室	同左
	182	学生部倉庫	同左
	192	プール機械器具庫	同左
	213	体育更衣室	同左
	219	更衣室	同左
施設部	126	石橋宿舎（一）1 号棟	同左
	129	石橋宿舎（二）2 号棟	同左
	131	石橋宿舎（三）3 号棟	同左
	136	石橋宿舎（四）4 号棟	同左
	140	石橋宿舎（五）5 号棟	同左
	197	石橋宿舎（四）	同左
	202	刀根山寮管理棟	同左
	112	電気室	同左
	128	石橋宿舎（二）物置	同左
	130	石橋宿舎（二）物置	同左
	132	石橋宿舎（二）物置	同左
	133	石橋宿舎（二）物置	同左
	134	石橋宿舎（二）物置	同左
	135	石橋宿舎（二）物置	同左
	137	石橋宿舎（二）物置	同左
	138	石橋宿舎（二）物置	同左
	139	石橋宿舎（二）物置	同左
	222	ボング室	同左
	223	電気室	同左
	225	豊中地区正門前衛所	同左
附属図書館	047	総合図書館	同左
	048	総合図書館 書庫棟	同左
文学、法学、経済学	167	文学部棟	文学部棟
	221	文学部日本学棟	文学部日本学棟
	249	文学部国際学棟	文学部国際学棟
	168	法経講義棟	法経講義棟
	244	法経研究棟	法・経済学総合研究棟（新棟）
	049	文法講義棟	同左
	208	文法講義棟	同左
	202	豊中総合学館	文系総合研究棟
	051	資料収蔵庫	同左
	255	ゴミ庫	同左
	256	ゴミ庫	同左
理学	152	理学 A 棟	理学部本館
	153	理学 B 棟	同左
	154	理学 C 棟	同左
	155	理学 D 棟	同左
	157	原子核実験施設	原子核実験施設本館
	183	理学 E 棟	理学部校舎（E 棟）
	233	宇宙地球科学棟（G 棟）	宇宙地球科学棟（G 棟）
	243	化学・薬学科学棟（G 棟）	化学・薬学科学棟（G 棟）
	246	化学・薬学科学棟（G 棟）	化学・薬学科学棟（G 棟）
	154	生物材料開発所	同左
	156	ベンチグラフ実験棟	同左
	158	レフトン移分光実験棟	同左
	193	分子熱力学研究センター	同左
	210	R1 総合センター分館	同左
	155	化学・薬学科学棟（G 棟）	同左
	181	R1 実験物理実験棟	同左
	207	理学部保管実験棟	同左
	211	放射性廃液保管庫	同左
	236	中和装置室	同左
	250	理学部ボング庫	同左

管理部局等	棟番号	再編による施設名称	H21年度末時点の施設名称
基礎工学	058	基礎工学 NMR 棟	合成化学分析実験室
	059	基礎工学 A 棟 基礎工学 B 棟 基礎工学 C 棟 基礎工学 D 棟 基礎工学 E 棟 基礎工学 F 棟	基礎工学部本館
	165	基礎工学 G 棟	実験研究棟（G 棟）
	180	超微細撮写—実験施設	超微細撮写実験室
	185	基礎工学 H 棟	基礎工学部校舎（H 棟）
	196	基礎工学国際館	基礎工学部校舎（国際館）
	198	超微細撮写実験室縮小工作	超微細撮写実験室縮小工作
	228	基礎工学 1 棟	実験研究棟新館（1 棟）
	242	基礎工学 1 棟	基礎工学部校舎新館（1 棟）
	062	プラスメ CVD 研究棟	同左
	178	複合極限実験施設	同左
	247	特高受電室	同左
	056	—	—
	057	—	—
	060	—	—
	061	—	—
	112	—	—
	115	—	—
	230	—	—
言語文化研究科	229	言語文化 A 棟	言語文化研究科棟
	190	言語文化 B 棟	言語文化研究棟
国際公共政策研究科	241	O S I P P 棟	国際公共政策棟（osipp 棟）
低炭素センター	151	低炭素センター実験室	低炭素実験室
	179	低炭素センター演習室	水素演習室
健康科学科学研究センター	220	健康科学科学研究センター	同左
	204	太陽エネルギー化学研究センター	同左
総合学術博物館	118	豊山山脈学館	同左
大学教育実践センター	028	実践センター—講義 C 棟	同左
	214	実践センター—実験棟 I	化学棟
	218	実践センター—実験棟 II	物理学棟
	226	実践センター—教育研究棟 I	自然科学棟
	231	実践センター—教育研究棟 II	人文社会学棟
	237	実践センター—管理・講義 A 棟	管理講義棟（A 棟）
	240	実践センター—講義 B 棟	講義棟（B 棟）
	253	実践センター—大講義室	大講義室
	215	第二体育館	同左
	013	第 1 倉庫	同左
	017	物置	同左
	019	—	—
	171	—	—
	209	—	—
	227	—	—
健康センター	163	健康センター	同左
科学教育機器1/ハーフンセンター A 棟	149	科学教育機器1/ハーフンセンター A 棟	科学教育機器1/ハーフンセンター（A 棟）
科学教育機器2/ハーフンセンター B 棟	150	科学教育機器2/ハーフンセンター B 棟	科学教育機器2/ハーフンセンター（B 棟）
サイバーメディアセンター	065	サイバーメディアセンター	同左
	189	電話交換室	同左
	203	サイバーメディアセンター—豊中教育実習棟	同左
	245	サイバーメディアセンター—豊中教育研究棟	同左

◆吹田キャンパス（1）		再編による施設名称	H21年度末時点の施設名称
管理部局等	棟番号	再編による施設名称	H21年度末時点の施設名称
国際部	039	国際交流会館吹田分館	同左
学生部	029	職員会館	職員会館（きさらび）
	050	協和厚生棟	同左
施設部	096	春日丘ハウス	共同研究員宿舎
	014	特高受電室	同左
	108	—	—
附属図書館	195	IFRAC 動物実験棟	低炭素動物実験施設 C 棟
附属図書館	079	理工学図書館 西館	同左
	160	理工学図書館 東館	同左
工学	015	工学 C 2 棟	C 2
	016	工学 C 1 棟	C 1
	018	工学 C 4 棟	C 4
	020	工学 C 5 棟	C 5
	023	工学 C 6 棟	C 6
	024	工学 C 7 棟	C 7
	025	工学 C 8 棟	C 8
	026	工学 R 3 棟	R 3
	027	工学 R 2 棟	R 2
	028	工学 R 1 棟	R 1
	041	工学 A 1 4 棟	A 1 4
	042	工学 A 1 5 棟	A 1 5
	043	工学 A 1 4 棟	A 1 4
	044	工学 A 1 2 棟	A 1 2
	047	工学 A 2 棟	A 2
	049	工学 A 1 棟	A 1
	051	工学 E 5 棟	E 5
	053	工学 E 4 棟	E 4
	055	工学 E 3 棟	E 3
	057	工学 E 2 棟	E 2
	058	工学 E 1 棟	E 1
	060	工学 U 4 棟	U 4
	061	工学 P 2 棟	P 2
	062	工学 P 1 棟	P 1

管理部署等	棟番号	再編による施設名称	H21年度末時点の施設名称
	063	工学P3棟	P3
	065	工学C2棟	C2
	066	工学U1M棟	U1M
	068	工学U2棟	U2
	069	工学U3棟	U3
	070	工学機械室	機械系機械室
	071	工学M1棟	M1
	072	工学M2棟	M2
	073	工学M3棟	M3
	075	工学学生実習工場棟	工学実習工場棟
	076	工学U5棟	U5
	077	工学S2棟	S2
	078	工学S1棟	S1
	080	工学S4棟	S4
	081	工学U8棟	U8
	082	工学S3棟	S3
	083	工学U6棟	U6
	085	工学R5棟	R5
	086	工学プラズマ実験棟	プラズマ実験棟
	087	工学A1.3棟	A1.3
	088	工学C3棟	C3
	116	工学A1.2棟	A1.2
	117	工学化物系電子顕微鏡室	化物系電子顕微鏡室
	131	工学低温実験棟	低温実験棟
	135	工学A7棟	A7
	144	工学U9棟	U9
	147	工学超高分解能電顕棟	超高分解能電顕棟
	157	工学U9棟	U9
	163	工学M1棟	M1
	169	工学U6棟	U6
	170	工学R4棟	R4
	177	工学U1W棟	U1W
	182	工学U1E棟	U1E
	184	工学U1S1棟	US1
	186	工学F1棟	F1
	188	工学U2棟	U2
	012	ウェストフロント	同左
	084	中央機械棟	同左
	181	21世紀プラザ	同左
	019	—	C4C5通り廊下
	022	—	危険薬品庫
	046	—	R1廃棄物倉庫
	048	—	E3E5通り廊下
	052	—	E4E5通り廊下
	054	—	E3E4通り廊下
	056	—	E2E3通り廊下
	074	—	燃料保管庫
	089	—	化学系危険薬品庫
	102	—	汚水貯留槽上屋(1)
	103	—	汚水貯留槽上屋(3)
	104	—	工学部研究室
	106	—	工学部廃棄物倉庫
	151	—	工学部R1保管廃棄庫
	167	—	工学部倉庫
	185	—	ゴミ庫
微生物研究所	003	微生物棟	微生物棟
	004	微生物感染実験棟	微生物感染実験棟
	005	微生物棟	別館
	008	微生物棟	本館
	010	微生物R1実験棟	R1実験棟
	011	微生物館	別館1
	123	微生物感染実験B棟	微生物感染実験B棟
	129	微生物館	別館2
	152	微生物感染共同実験室	感染共同実験室
	193	微生物生命科学研究棟	同左
	001	—	危険薬品庫
	002	—	R1廃棄物保管庫
	009	—	通り廊下
	105	—	廃棄物倉庫
	113	—	自家発電機室
	191	—	倉庫
	194	—	ゴミ庫
産業科学研究所	030	産研電子プロセス実験室	電子プロセス実験室
	032	産研共通実験棟	工場棟
	033	産研コッパルト棟	化学部コッパルト実験室(コッパルト棟)
	036	産研第1研究棟	管理棟
	038	産研管理棟	管理棟
	122	産研ライオン棟	加速器量子ビーム実験室(ライオン棟)
	153	産研総合解析センター	材料解析センター
	—	産研インキュベーション棟	ナノテク・インキュベーション棟
	040	—	同左
	176	—	同左
	177	—	同左
	179	—	同左
	031	—	産研不用品倉庫
	033	—	薬品倉庫
	034	—	放射性廃棄物貯蔵庫
	037	—	産研通り廊下
	108	—	産研廃棄物倉庫
	199	—	ゴミ庫
蛋白質研究所	137	蛋白質構造解析研究棟	結晶解析研究棟
	138	蛋白質NMR実験棟	超伝導核磁気共鳴棟

管理部署等	棟番号	再編による施設名称	H21年度末時点の施設名称
	092	蛋白質棟	同左
	093	蛋白質共同研究拠点棟	蛋白質機械棟
	192	蛋白質共同研究拠点棟	蛋白質実験研究棟
	095	—	蛋白質P C B保管庫
	107	—	蛋白質感染性廃棄物庫
	118	—	蛋白質R1危険薬品庫
	148	—	蛋白質車庫
社会経済研究所	126	社研A棟	社会経済研究所研究棟
	161	社研B棟	社研研究棟新館
総合科学研究所	100	総合研究実験棟	同左
	111	総合研究実験研究棟	同左
	158	総合研究多目的接続装置棟	多目的接続装置棟
	187	総合研究連携研究棟	連携研究棟
	151	スーパードライバース研究センター2号館	同左
	182	スーパードライバース研究センター1号館	同左
	184	前田記念館	同左
	101	—	総合研究電気室
	196	—	総合研究シムス
	059	低温センター	同左
阪大先端科学センター	139	超高压電子顕微鏡北棟	超高压電子顕微鏡棟
	172	超高压電子顕微鏡東棟	超高压電子顕微鏡東棟
	090	超高压電子顕微鏡北館	超高压電子顕微鏡北館
	183	超高压電子顕微鏡西棟	超高压電子顕微鏡西棟
	127	—	社会経済研究所車庫棟
	141	生物工学国際交流センター	生物工学国際交流棟
	173	先端センターB棟	共同研究棟
	174	先端センターC棟	先端センターC棟
	175	先端センターD棟	先端的研究棟
	180	先端センターE棟	インキュベーション棟
保健センター	171	保健センター秋田分室	同左
	097	放射線物理A V Eライオットロン棟	放射線物理ライオットロン棟
	098	放射線物理R1棟	放射線物理R1棟
	099	放射線物理熱源工作棟	放射線物理熱源棟
	110	放射線物理棟	放射線物理棟
	120	放射線物理システムハウス	放射線物理システムハウス
	165	放射線物理シンクサイクロトロン棟	新サイクロトロン棟
	186	放射線物理シンクサイクロトロン棟	新放射線棟
	130	放射線物理シンクサイクロトロン棟	放射線物理シンクサイクロトロン棟
	197	放射線物理シンクサイクロトロン棟	放射線物理シンクサイクロトロン棟
サイバーメディアセンター	091	サイバーメディアセンター本館	同左
	136	サイバーメディアセンターネットワーク棟	同左
	140	サイバーメディアセンターネットワーク棟	同左
	178	サイバーメディアセンター実験棟	同左
	183	—	ガスボンベ室
	112	レーザー研1棟	レーザー研実験棟
	119	レーザー研化学処理棟	化学処理棟
	149	レーザー研ベント棟	レーザー研ベント棟
	153	超伝導フォトニクス実験棟	超伝導フォトニクス研究棟
	125	レーザー研研究棟	同左
レーザー研	145	レーザー研研究棟	同左
	121	—	レーザー研実験室
	124	—	レーザー研機械棟1
	140	—	レーザー研機械棟2
	159	—	レーザー研電気室
	198	—	レーザー研ボンベ庫
レーザー研	112	レーザー研1棟	レーザー研実験棟
	119	レーザー研化学処理棟	化学処理棟
	149	レーザー研ベント棟	レーザー研ベント棟
	153	超伝導フォトニクス実験棟	超伝導フォトニクス研究棟
	125	レーザー研研究棟	同左
	145	レーザー研研究棟	同左
	121	—	レーザー研実験室
	124	—	レーザー研機械棟1
	140	—	レーザー研機械棟2
	159	—	レーザー研電気室

管理部署等	棟番号	再編による施設名称	H21年度末時点の施設名称
総務部	081	たのこま体育館	同左
	057	まきば体育館	同左
国際部	072	I Cホール	同左
	014	大阪大学本部棟	本部共通棟
学生部	015	本部車庫棟	同左
	009	薬学研究科食堂	同左
施設部	018	本部南棟	本部南棟
	008	本部前福利会館	福利会館
	002	体育館	体育館
	024	体育管理棟	同左
	025	和弓場	同左
	041	特高発電所	同左
	042	—	東門門衛所
	043	—	西門門衛所
	064	コンベンションセンター	同左
	047	生命科学図書館	同左
人間科学部	005	人間科学本部	人間科学本部
	006	人間科学別館	人間科学別館
	016	人間科学人間生態学実験室	人間生態学実験室
	020	人間科学北館	人間科学北館
	070	人間科学東館	人間科学東館
	010	人間科学南館	人間科学南館
	013	—	人間科学車庫棟
医学・同附属病院	035	医学基礎研究棟	基礎研究棟
	036	医学共同研究棟	共同研究棟
	037	医学バイオ研究棟	バイオ研究棟
	038	医学臨床研究棟	臨床研究棟
	040	医学動物実験施設	動物実験施設
	043	医学部附属病院病棟	病棟
	046	医学部附属病院外来・中診療棟	外来・中診療棟
	048	医学部講義棟	医学部講義棟
	030	医学放射線施設	医学部R1施設
	053	看護師宿舍1号棟	同左

管理部署等	棟番号	再編による施設名称	H21年度末時点の施設名称
歯学部・同附属病院	054	看護師宿舍2号棟	同左
	055	看護師宿舍3号棟	同左
	068	看護師宿舍4号棟	同左
	075	立体駐車場	同左
	056	医学部・医学部附属病院管理棟	医学部・同附属病院管理棟
	063	歯学部会館	同左
	049	—	ガスガバナリー室
	050	—	歯学部学生会館
	052	—	危険薬品庫
	060	—	医療ガスマニホールド室
歯学部・同附属病院	065	保健平北棟、南棟、中央棟、講義棟	保健科学技舎
	071	—	危険物倉庫
	044	超高压放射線治療棟	同左
	067	M R I - C T棟	同左
	019	歯学部・同附属病院本館	同左
	023	歯学部記念会館	同左
	077	口腔科学研究棟	同左
	078	先端口腔総合診療棟	同左
	021	—	歯学部倉庫
	022	—	歯学部車庫
薬学部	001	薬学1号館	薬学研究科1号館
	002	薬学実習棟1	薬学研究科学生実習棟
	003	薬学2号館	薬学研究科2号館
	011	薬用植物園大温室	同左
	012	薬用植物園小温室	同左
	017	薬用植物園管理棟	同左
	—	薬学実習棟2	平成21年8月末竣工 薬学研究科医歯薬学実習館
	004	—	薬学研究科危険薬品庫
	009	—	ガバナリー室
	080	—	薬学研究科排水処理槽
情報科学研究科	074	情報科学A棟	情報系総合研究棟
	082	情報科学B棟	情報系総合研究棟
生命機軸研究科	026	生命機軸B棟	生命機軸B棟
	027	生命機軸C棟	生命機軸C棟
	028	生命機軸A棟	生命機軸A棟
	029	生命機軸D棟	生命機軸D棟
	073	生命機軸ナノバイオロジー棟	ナノバイオロジー棟
	076	生命機軸アノックス棟	アノックス棟
	029	—	危険物貯蔵庫
	032	R1総合センター本館	同左
	061	R1総合センター新棟	同左
	030	—	無機廃液処理施設
環境安全研究管理センター	034	—	処理棟
	069	環境安全研究管理センター	同左

管理部署等	棟番号	施設名称変更の提案 (部局回答後)	現状の施設名称
総務部	018	職員会館	同左
	005	薬面留学生会館1号館	同左
国際部	027	薬面国際学生宿舎	同左
	032	薬面留学生会館2号館	同左
財務部	006	—	守衛室
	004	薬面福利会館	薬面福利会館
学生部	006	サクル館	サクル館
	011	薬面学生寮A1棟	学生寄宿舎男子棟
	012	薬面学生寮管理棟	学生寄宿舎管理棟
	013	薬面学生寮A2棟	学生寄宿舎男子棟
	014	薬面学生寮B1棟	学生寄宿舎女子棟
	015	薬面学生寮B2棟	学生寄宿舎女子棟
	016	薬面学生寮女子共用棟	学生寄宿舎女子共用棟
	017	薬面学生寮男子共用棟	学生寄宿舎男子共用棟
	022	薬面会館	会館
	025	第二体育館	同左
施設部	010	体育館	体育館
	028	—	プール附属屋
	020	—	倉庫
	023	—	運動場器具庫
	007	同左	同左
	003	—	同左
外国語学部	001	研究講義棟A棟	研究講義棟A棟
	002	研究講義棟B棟	研究講義棟B棟
	024	研究講義棟D棟	研究講義棟D棟
	026	研究講義棟E棟	研究講義棟E棟
	019	—	管理棟
	021	大阪外国語大学記念会館	同左
	029	—	屋外便所(女子用)
	030	—	屋外便所(男子用)
	009	研究講義棟C棟	研究講義棟C棟
	033	—	施設研究棟
日本語日本文化教育センター	031	日本語日本文化教育センター	同左

